

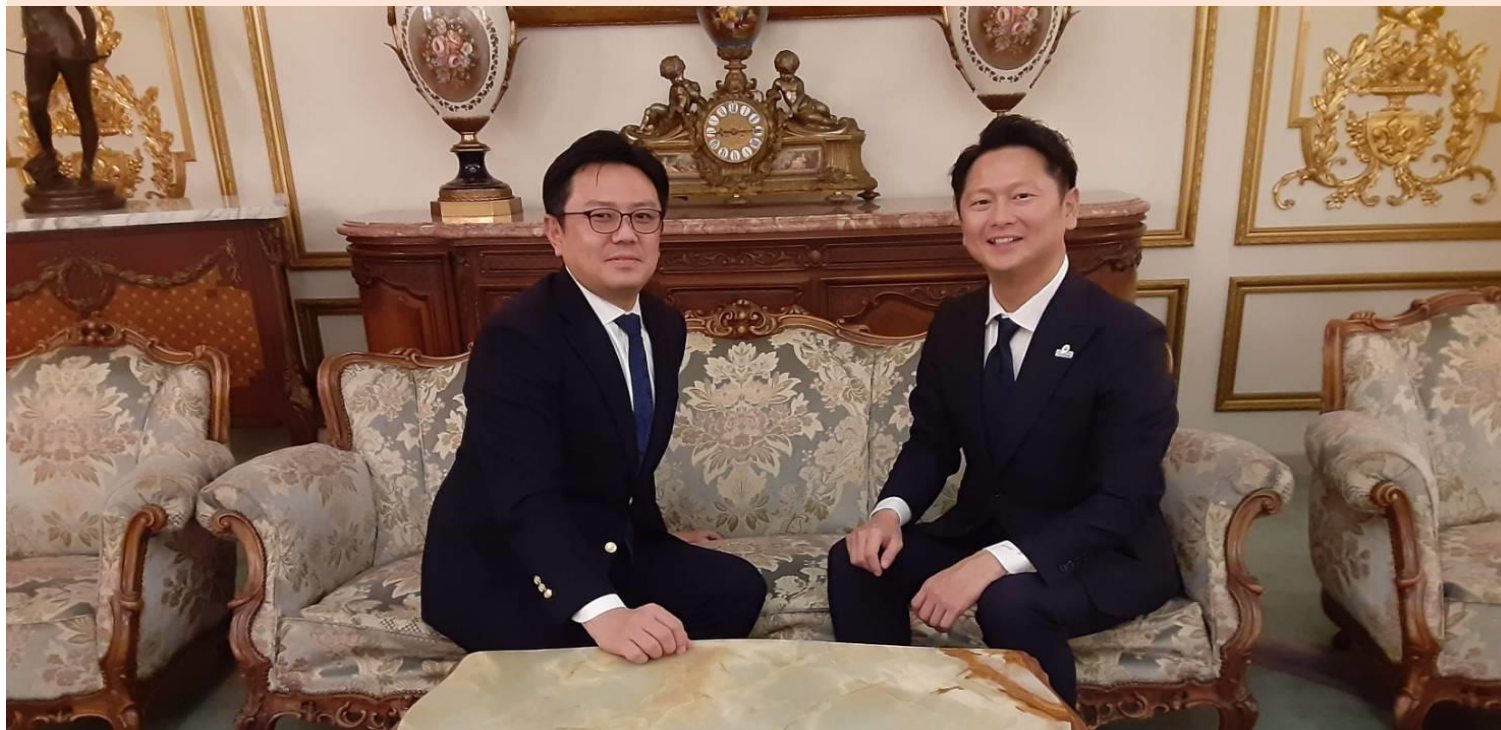
2024年
3月号

Big Dipper NEWS

齊藤会長
インタビュー

東北七県電気工事組合連合会 青年部です。皆さま、どうぞ宜しくお願い致します！！

今回は特別企画。全日電工連全国青年部協議会齊藤会長と東北ブロック岩田会長との対談です！



青年部の役割とは、電気工事業界の地位を向上させること

岩田会長（以下岩田） 本日はお忙しいところお時間を頂戴しありがとうございます。令和5年度より全日電工連青年部会長に就任されたということで、東北ブロックの青年部に所属している私たちもう嬉しく思っています。本日はいくつか質問をさせていただきますのでよろしくお願い致します。

齊藤会長（以下齊藤） こちらこそよろしくお願い致します。

岩田 まず、全日電工連青年部として齊藤会長ご自身はどのような役割を担われているかを教えていただきたいです。

齊藤 まず青年部の役割というのは我々電気工事業界の地位向上を間違いなくしなきゃいけない。これ一択に過ぎないんです。

岩田 はい。

齊藤 これまでの青年部の会長もそうだと思いますが、青年部の地位向上じゃなくて業界の地位向上を目的に活動していたと思うし、青年部でやっていること全てが自分たちを成長させる場所と捉えているんです。だから会長が偉いわけでもなく、青年部会員がそれぞれの地元で電気工事の地位を少しでも上げていく、この集合体が我々青年部の活動であると考えています。

岩田 会員それぞれが電気工事業に矜持を持つことが必要なのですね。

齊藤 全日電工連は日本のことを考えて動く必要があります。日本がどうなったら電気工事業界が良くなるかということを考えて活動をしているのが現状です。私たちの活動が全国各地に連鎖して運動が大きくなったりすればいいなと思っていますし、各地都道府県青年部はそれぞれの都道府県の電気工事業界が良くなるかを考えて活動してほしい、と願っています。

齊藤 その中で会長の役割というのは、方針を決めることです。方針を決めたら、あとはそれに基づいて各ブロック長をはじめ仲間が計画を立てて行動してくれています。去年と同じではなく、新しいことを生み出して組織を活性化しなければならないというプレッシャーはありますが、チャレンジしていくことが重要ですね。

岩田 ありがとうございます。続いての質問になるのですが、全日電工連青年部が掲げる理想の組織とはどのような者でしょうか？

齊藤 私もずっとこのことについて考えていたのですが、全日青年部というより各青年部としての理想の組織は、失敗を恐れずにチャレンジし続ける組織だと思っています。青年部という枠の中では失敗したっていい。何もせず名前だけ会長でいるよりは新しいことにチャレンジしてしっかり勉強する機会がある組織であってほしいです。



全日本電気工事業工業組合連合会全国青年部協議会 会長 齊藤 卓也 (新潟県長岡市)
生年月日 1977年10月29日 血液型・星座 O型・さそり座
好きな食べ物 茶色い食べ物・せり鍋 嫌いな食べ物 なし
座右の銘 成功の囚人 (自身が経験した成功にとらわれるとチャレンジをしなくなる)
旅行に行くならどこに行きたい? 桜が満開の京都、南極
自身が住んでいる地元のいいところ 長岡 食が豊かで8月には花火もある
新幹線で1時間40分で東京に行ける

自ら考えチャレンジする組織をつくっていく

岩田 なるほど。

齊藤 だから、全日電工連が掲げる理想の組織というよりは、各都道府県工組の会員一人一人が考えて組織を作っていく以外にないですね、全日電工連が組織の模範みたいに見られていますが、私も最初は全日電工連が情報をポンと与えればそれが全国に広がるのが組織の形だと思っていました。言うなればピラミッド式の組織図ですね。ただ、私が考える理想の組織は会長の役割を持った方が組織の真ん中において、会員の皆さんと一緒に活動しながらチャレンジの輪が同心円上に広がっていく組織だと思っています。どっちかというとなら友達輪とか、漫画のワンピースのルフィのように、縦ではなく横に広がるような組織にしていきたいです。

岩田 なるべく多くの人たちと距離が近い組織の形ですね。

齊藤 俺が会長。俺が偉いから指示を出すだけ、あとはみんなやっておけ、ではなく、みんなと一緒にやっていきたい、という思いが強いです。会社でもそうだと思うんです。私は会社でも現場に行くし、図面も書くしお客さんとの打ち合わせにも行きます。仲間には社長になったら現場にかかわる業務なんてしないよ、って何回も言われますけど、社長が業務に携わった方が利益が出るというのが私の考えです。

岩田 社長自ら動くんですね。

齊藤 従業員が20人そこそこしかない会社で、お飾りじゃないんだし資格も今までの経験もあるからやれます。従業員さんにしてもらった仕事で給料を出してもらおうつもりはなく、自分の給料は自分で稼ぐという自負があるんです。従業員も社長がそれでいいならいいんじゃないって感じです(笑)

齊藤 社長は社長の業務、従業員は従業員の業務をして、私が全日電工連に行くからあとよろしくね、って社従業員に言ったら、従業員だって「えー、俺も予定があるのにー」って嫌な気持ちになるかもしれないし、ピラミッド型の組織じゃ現場の社員さんとの距離が遠く感じてしまうんです。私は会社では従業員と同じフロアにいますし、社長室はありません。みんなが普段どんな話をしているかを聞きながら働いています。組織の人の数にもよるのかもしれませんが、私は青年部も会社も自らしっかりと現場の業務に携わりながら成長できる組織を作りたいと考えています。

岩田 従業員さんが働きやすい環境を作っていて、それを青年部にも活かされているんですね。

齊藤 基本会社大好きなんです(笑)

岩田 ありがとうございます。続いての質問ですが、齊藤会長が電気工事業に携わるようになったきっかけを教えてください。

齊藤 全日電工連に出てくるような方は大体そうだと思いますが、親父が電気工事の仕事をしてたからですね。

岩田 自分は電気工事以外の道に行きたい、と思ったことはありますか？

齊藤 ないです！(笑)でも、言えるのは親父とは喧嘩ばかりしていました。親父は大学に進学してほしい、でも自分は高校を卒業したら就職したい。親父とはソリが合わなくて、早く家を出たいとずっと考えていました。それで大学ではなく専門学校に行かせてもらって、いきなり県外の電気工事業界に入りました。親父が出来るんなら俺も出来る。そんな気持ちでした。

岩田 そうだったんですね。

齊藤 資格を取って電気工事をして、いつか親父を見返してやりたいな、と思って仕事をしていました。結婚もして、これからというときに2004年新潟県中越地震が発生し、それがきっかけで実家に帰ることになりました。東京に家を買おうと考えていたところ、妻から「実家に帰った方がいいんじゃないの?」と言われ、なんでそんなことを言うんだろうなと思ったら、自分の母親から親父が倒れるくらい忙しいから手伝ってほしいと連絡が来たそうです。家業を継ぐということもたまたまだったと思いますし、ずっと親父以上にできると思って仕事をしていたのでそんな強い思いはなかったんです。うちの場合私の弟が先に今の会社で勤めていたので、弟が会社を継いでくれればいいと考えていたし、もし地震がなくて東京で働いていたら自分はどんな人生を歩んでいたんだろうって考えたこともたくさんありました。

岩田 親子の確執って結構ほかの会員の方にも多くありそうですね。都会で働いていた時と、地元で働いた時にギャップを感じたことはありましたか？

齊藤 ズバリ、年収のギャップがすごかったです。東京にいた時の半分になりましたからね。家族にかかるお金やお小遣いなんかはかなりキツくなりました。

岩田 確かに生活水準も変えていく必要がありますね。

齊藤 あと、東京にいたときは代理人業務を専門でやってきたので、仕事の相手は一人親方などの外注先が主でした。自分はしっかり営業をして、外注先に仕事を回してやってもらうのが理想と考えていました。現在の会社は自分の会社の技術者が実際に作業を行います。私の地元では自分の会社に技術者が多くいることが信用の証だから自前で技術者を育てろ、と何回も言われ、ずいぶん親父と言ひ合いになりました(笑)

東北七県電気工事組合連合会 青年部 会長 岩田 雄治 (山形県山形市)
生年月日 1984年5月25日 血液型・星座 B型・ふたご座
好きな食べ物 海苔 嫌いな食べ物 かぼちゃ
座右の銘 自他共栄
旅行に行くならどこに行きたい? 南の国でのんびりしたいです
自身が住んでいる地元のいいところ 蔵王温泉 ゲレンデの近くにある温泉
スキーやスノーボードもでき最高です!



「想像し創造する」ことを従業員と共に磨いていく

齊藤 今は自分の会社で技術者を育てよう、と言う考えになっています。技術を繋いでいかなければならないという使命観があります。今私の会社は50代が数人で多くは20代なので、なおさら育てていかなければならないと感じています。

岩田 若い技術者を多く育てるのも組合の役割のひとつですよ。では、次の質問にうつります。先ほどの話につながるかと思いますが、齋藤会長の会社で大切にしていることや理想のゴールがあれば教えてください。

齊藤 いつも従業員に言っているのは「想像し創造すること」です。私はいつもどうやったら従業員が笑顔で働いてくれるかをイメージしています。そして、その笑顔を会社でどうやってクリエイティブしていくのかを考え、朝礼で話しています。

岩田 そうなんですね。

齊藤 従業員に対してあまり面倒なこと、難しいことは言いません。従業員を迷わせたくないのです。私は従業員の笑顔をずっと作るために自社が良くなれば良いと思っています。従業員が泣いていけば私も泣くしお客さんもきくと泣くんです。本当に単純なことです。

岩田 会社の優先順位としては従業員満足が高いということですか？

齊藤 顧客満足度が高いからその見返りとして利益が出るという考え方もありますし。従業員が良くならなかつたら顧客満足度も高くない、そうしないと利益が出ない。卵が先か鶏が先か、みたいになっていますが、会社を信頼して満足して仕事をしてきている従業員の皆さんにお客さんが信頼を寄せてくれている、それが結果として利益になっているんだと説明しています。

岩田 なるほど。

齊藤 従業員の皆さんは会社の代表となってお客様を想像し創造してくれれば、お客様の笑顔が最後に自分たちに帰ってくるんだよと。だから先ほどの質問の答えとすれば従業員満足を優先していますね。

岩田 シンプルですが大切なことですね。

齊藤 私たちの仕事柄お客様に会う機会というのはそうそう多くありません。だから、従業員ひとりひとりがしっかりした気持ちでお客様と向き合えるかどうかだと思います。このお客様のために自分は何ができるだろうか、その結果が笑顔という形で返ってくる。私はいつもそう思っています。

岩田 従業員満足を掲げている会社さんって従業員さんが生き生きとしているイメージがありますね。

齊藤 顧客満足100%！って言っている会社って従業員が疲れているイメージがあるんですよ。土日祝日なくお客様に言われたからやろう！と言って引っ張り出す。私はそれは違うんじゃないかな、と。以前の職場は外注との付き合いだから後は請けた側が考えれば良いやと思っていましたが、今は従業員は仲間だから、そんなことできないよ、と感じています。ただ、自社は会社の売上や利益などの数値を全て従業員に開示していますので、いつもお世話になっているお客様が困っているときは、「助けてもらっているお客様が困っているからみんな頑張ろう！」と伝え、従業員が納得してくれれば休日でも仕事してくれます。あとはお客様との折衝について自社の状況を隠さずにご報告することですね。

岩田 従業員を守る上でも大事ですね。

齊藤 お客様と対等に話すためには、技術力は負けてはいけません。だからこそ、いつもと違うことを常にしてほしいと何度も伝えていきます。配線のルートや工具、工程の順番など、違うやり方をすれば違う結果が必ず出ます。それが積み重なって自社技術の安全性や信頼性の向上に必ずつながりますから。

岩田 業務の効率化を図る理由の一つに、顧客情報を整理したり自身の技術を磨く時間を取らなければならないと考えています。修行する時間とか、新しいことに取り組む時間って大事ですよ。

齊藤 付け加えれば、どうやって従業員を巻き込むか、というところですね。経営者と従業員ってどうしても経営や業務に対して温度差があります。先ほどの話に戻るのですが、電力への申請にしろ現場での対応にしろ、経営者として従業員が何に苦労しているかを理解できないといけないと感じています。逆に経営者側はふんぞり返っていないで、業務でわからないことはどんどん従業員に聞く姿勢も必要です。そうやって会社内の意識を共有できればいいなと思っています。

岩田 ありがとうございます。最後に、全国の青年部会員に伝えたいことや願っていることがあれば教えてください。

齊藤 私がいつも思うのは「リノベーション」ではなく「イノベーション」をおこしてもらいたい、ということです。何かの延長線上で、今までのものを少しずつ変えていくのではなく、新しいもの、こんなものがあつたらいいなというものができたらうちの業界は良くなる、というものを産む力を養ってもらいたいんです。だから今期の全日電工連青年部のメンバーは大変だと思います。新しいものを作らなきゃならないわけだから。

岩田 確かに(笑)

「リノベーション」ではなく「イノベーション」

齊藤 新しいものをつくりあげてもらいたい。そうすれば結果が必ず出ます。そして新しい人とコラボする。これはプロジェクトとして足し算ではなく掛け算であると確信しています。いい事例を何も変えずにただ実施することと、自分の考えを入れて実施するのでは結果が変わります。青年部はどんなことがあってもチャレンジして行ってほしい。コロナがあって何も動けなかったあの時から、何かを起こせる状態に戻りました。何か新しいことをしてやろう、という勢いをもつことを青年部の会員には願っています。

岩田 私たちは貴重な機会をいただいているんですね。

齊藤 やって後悔してもいい。世界が変わります。それが会員の皆さんの器を拡げます。期待しています！

岩田 本日はお忙しい中貴重なお時間をいただきありがとうございました。同じ東北ブロックの一員として齊藤会長の力になれるよう私たち東北七県青年部もチャレンジしていきます！

